

武州みだけ

第五十六号

奉納神楽の撮影では、張り詰めた空気に包まれながら一枚一枚大切にシャッター切る時の緊張感がたまりません。
ダイナミックで躍動感溢れる姿と舞台上に漂うオーラが表現できるような掛けています。

(写真・文 鶴巻育子)

第四十八回 武蔵御嶽神社奉納俳句入選作品

応募総数 二百三十九句

選者 蕃目良雨

特選

合掌に霧吹き上げ来遙拝所
おほかみの護符貼る井戸や柿若葉
天高く大口様へ奥参り
蛸の声宿坊の朝まだき
葉山葵を地酒のあてに御師の宿

狭山市 古谷彰宏
青梅市 津布久信雄
練馬区 川村能正
文京区 宮本象三
新座市 長谷川 栄

秀逸

武田菱透かす障子や御師の宿
御師の宿石路の庭隅白衣干す
霧の珠目にも眩しき蜘蛛の網
登り来て神のお許の秋海棠
宿坊の板のきしみや秋の風
新緑の嶺にこだます法螺の声
神殿に禰宜のすり足淑氣満つ
冬青空祝詞響くや御嶽山
霧深く沈めて山や魂迎
山夕やけ雪舟墨をもてあます

狭山市 古谷彰宏
狭山市 古谷多賀子
足立区 中村拓也
青梅市 西村康治
世田谷区 菊池晃子
青梅市 久保田 享
新座市 長谷川 栄
宮城県刈田郡 我妻 遼
府中市 天地わたる
日の出町 渡邊敏雄

佳作

秋高し石段駆ける子等の声
竹の節借りて華やぐ春の雪
汝を待つ御嶽の一人静かな
御岳山夫婦で愛でる紅葉かな
初詣舞茸天ぶらくるみ蕎麦
秋うらら途切れぬ傾斜一歩ずつ
老鶯や雨のそぼ降る霧の中
涼風や木陰に蓮華升麻あり
支へある千年檉小鳥来る
神聖な御嶽に入る冬の空

練馬区 河原日向子
新座市 長谷川 栄
世田谷区 中古苑生
東京都東久留米市 阿波連光太郎
練馬区 川村能正
品川区 木村玲子
府中市 天地わたる
文京区 内田健太郎
青梅市 津布久信雄
狛江市 鎌田典子

選者吟しづけさや霧満月の御嶽山

奉納俳句選評

合掌に霧吹き上げ来遙拝所
古谷 彰宏
奥宮を遠くに遙拝し祈りの合掌をした刹那、谷から霧が吹き上げてきた。御嶽の神と心が一つに繋がったことを感じたことだろう。
神の息吹の霧に触れた作者は幸せだ。

おほかみの護符貼る井戸や柿若葉

関 迪子

神話の時代から山岳神の守り神はおほかみだ。山を生活の糧にしている人はおほかみの気配の中に生きている。宿坊の景色だろうか、井戸におほかみの護符が貼られ日々の安寧が保たれている。柿若葉が実に美しい。

天高く大口様へ奥参り

川村能正

秋晴れの一日。奥宮にあるおほかみの神へお参りした。険しい山道を物ともしない心意気が素晴らしい。
山の神さまに親しむことが心身の安寧を招くことに繋がる。

蛸の声宿坊の朝まだき

宮本象三

御師の人々は早起きだ。それよりも早く山では蛸が鳴き始めたところを描いた。
寢床の中で山の動き始める気配に耳を敏くする作者が見える。

葉山葵を地酒のあてに御師の宿

長谷川 栄

都会で生活するものにとつて、宿坊の料理は新鮮である。どれも捨てがたい。
今晚の突き出しは葉山葵のお浸し。地酒の素朴な旨さとよく合うことよ。

第四十九回

奉納俳句募集要項

- 一、作品は未発表に限る
 - 一、受付は指定用紙にて投句箱へとする
(郵送等直接の受付は致しません)
 - 一、締切り 令和四年一月十五日
 - 一、発表 令和四年三月中旬
- 四季を通じ「御岳山を題材」とした俳句を募集しております。
大勢の方の投句をお待ちしております。

選者ご挨拶

悠久の歴史を秘める武蔵御嶽神社の奉納俳句の選をする榮に浴し身の引き締まる思いです。

前任の岡田日郎先生の徹底した客観写生の俳句を私も心掛け、武蔵御嶽神社の素晴らしさを俳句で記録するお手伝いをさせていただく積ります。

俳句は大自然から授かるものというのが私の考えです。日常の殺伐とした生活を抜けて御嶽山の中に飛び込み身も心もリフレッシュすれば自ずと俳句は生まれてくる筈です。

何度もお山に登り、四季それぞれの武蔵御嶽神社の素晴らしさを体感すればきっと良き俳句が得られることでしょう。

皆さまの素晴らしい作品に出会えることを期待いたします。

墓目 良雨

選者略歴

墓目良雨（ひきめりょうう）

昭和17年埼玉県生まれ。本名・駿英。

『春耕』皆川盤水・『風』沢木欣一に師事。昭和63年に「春耕賞」を受賞。

現在、『春耕』副主宰兼編集長・『東京ふうが』主宰・『塔の会』会員・俳人協会監事をつとめる。「お茶の水俳句会」「皆中句会」「神保町句会」「春耕同人ネット句会」にて句会指導。芭蕉研究、蕉村研究を長く手がけ、現在は高野素十の研究を行っている。

また、『春耕』誌上に「鑑賞 現代の俳句」「俳句に向き合う基本」「盤水一句鑑賞」を、『東京ふうが』誌上に「素十俳句鑑賞」を執筆。句集に『駿河台』『神楽坂』『菊坂だより』『九曲』『2009 一日一句集』ほか、著書に『平成 食の歳時記』詩歌集『酔うき母』その他編著若干。

節分

『一二四年ぶり、二月二日の節分祭』



令和三年となり、立春の前日が一二四年ぶりになった本年の節分。コロナ禍での二回目の祭礼となりました。例年の年男・年女による追儺式では、福豆を拾われる方々で賑わっていましたが、緊急事態宣言下での節分祭となり、追儺式の参列や福集めの皆様には来社をご遠慮いただき、宮司・祭員のみでの執行となりました。厳粛な空気の中、追儺の儀では、晴れ渡る青空の下で皆様の厄難消除と新型コロナウイルスの終息を祈り、関東平野へ向かい厄除・招福の豆を声高々に撒かせて頂きました。

また、全国的に珍しいと思いますが、節分の当日、御嶽神社の神職達は山を下り、青梅市内を始め、あきる野市・福生市等まで足を伸ばします。これは節分祭へお申し込み頂いたものの、当日のご参列が厳しい企業様や個人宅へ神職が伺い、豆まきをさせて頂くのです。今年は参列をご遠慮頂いたため、数百件の豆まきをさせて頂きました。感染防止のため小さな声での追儺の儀となりましたが、神職がお伺いして執り行う追儺の儀は、例年以上に大変お喜びいただき、私たち神職も喜びも一入でした。来年の追儺の儀が、大きな声で鬼遣らいと福招きが出来ましよう、そして一日も早く日常を取り戻し安心した生活が送れますよう、これからも祈念してまいります。

※節分祭年男・年女のお申し込みは、年明け一月中旬より承ります。

※ご自宅や会社での追儺式をご希望の方はお電話にてお問合せください。

（配札範囲は、青梅近郊となります。）

※遠方の場合、祈祷札・福豆等は発送させていただきます。



「追儺の儀」の様子

写真提供：炭鳥蔵 I K A D A

御嶽神社あれこれ

「みたけとおひなさま」

「三十六歌仙絵額」と「古今雛」

日本人形玩具学会会員
齋 藤 愼 一

江戸時代も中頃、江戸の市民達は古今集風の和歌、古典を念頭にした俳諧をたしなみ、源氏物語や枕草子への興味も生まれました。幕府の「歌道方」であった北村季吟（一二二四～一七〇五）の「源氏物語湖月抄」「枕草子春曙抄」も刊行、流布しています。

北村季吟の弟子であった松尾芭蕉の「内裏雛人形天皇の御宇とかや」（俳諧江戸広小路）延宝二年（一七八七）序）は、内裏雛の初期の例ですが、雛人形に平安時代の優雅さを造型しようとしていた気分を伝えています。内裏とは、平安時代の皇居、転じて天皇のことです。天皇を連想する一対の坐り雛が男雛は冠に「束帯」で、女雛は俗に「十二単衣」という「裳唐衣」に似せた姿であったわけですが、「人形天皇の御宇とかや」の部分は在原業平の恋物語の能「杜若」の詞草「仁明天皇の御宇とかや」に依拠します。武蔵御嶽神社の拝殿には、弘化二年（一八四五）に、新しくした、平安時代の勅撰和歌集の筆頭「古今和歌集」などの名歌人（歌仙）三十六人の歌と絵姿を描いた「三十六歌仙絵額」三十六面が飾られていました。

古今集に登場する歌人の優美な絵姿は、すでに鎌倉時代に定型化して何種類も存在しました。それらを模写した

「紛本」は、平安時代以来の倭絵でした。御嶽神社の「三十六歌仙絵額」三十六面もそれによっています。

こうした三十六歌仙絵額は、江戸を中心とする徳川家造営の社殿、下野の日光、武蔵の川越、江戸上野の各東照宮の拝殿に掛けられています。御嶽は、慶長十一（一六〇六年）に二代將軍秀忠、元禄十三年（一七〇〇年）に五代將軍綱吉の造営（公儀普請）です。御嶽の拝殿にも、今度の調査で「三十六歌仙絵」が以前から存在した可能性を推定できる次の記録が見つかりました。

享保四年（一七一九年）の「武州御嶽蔵王権現内陣神宝目録」（黒田忠雄家文書）に「拝殿」に宝物として「百人一首歌いた一枚二人ツ、よむ歌いた数八枚有り」の記述です。「百人一首いた」とは、百人一首の読み札のように、歌人を描いていた板額で、元禄十三年には拝殿に掛けられていた「三十六歌仙絵額」の残りと思われる。

江戸時代の人々にとって、倭絵風の王朝姿の歌人が極彩色で描かれた三十六歌仙絵は、内裏雛の姿など、平安風雛人形づくりの参考になったことでしょう。しかし、歌仙絵もそうですが、平安貴族の衣裳は織物で地味なので、金襴・錦の華やかな文様に、引目勾鼻も今風の美形に

変えられました。姿形は歌仙絵の平安風、色彩、目鼻立ちは江戸好みです。こうして江戸時代後期十八世紀後半頃には、新しく江戸で「古今雛」という様式が規格化されて一世を風靡し、現在みる雛人形の十五人揃いに発達したのです。

文化年間の川柳にいう「祖母次郎左母つっぱりに嫁古今」という古雅な次郎左衛門雛から、袖をつっぱった享保雛へ、そして今の古今雛という変化です。今様の江戸好みの古今雛を考えだしたのが、

人形師の原舟月の初代と二代とされ、特に二代目三代目の名作が残りますが、二代目は古今亭、三代目は古今齋と称したことは、まさに平安風をより江戸人主体の雛人形の新様式、流行の「古今雛」創始、製作の作流の誇示でしょう。しかも「古今」とは江戸時代の和歌の本流「古今和歌集」に由来し、古今集の三十六歌仙の絵姿を重ねたからでしょう。当時平安時代という歴史用語はなかった。古今雛について当時の人形問屋は「女性ごのみ」で、「柔和なもの」と説明しています。まさに、江戸の武家から町人までが学んだ「古今和歌集」の女性的美学の「手弱女風」です。三十六歌仙絵には、内裏雛の束帯や裳唐衣姿を、様々な姿態、方向から描いてみせ、「矢大臣」など、弓矢を持った武官（近衛の中・少将）の在原業平や藤原高光も描かれます。もしかすると「古今雛」に矢大臣を加えたのは、三十六歌仙絵の影響かもしれません。武家と町人の都・江戸の好みに造型した

古今時代公家風俗の世界です。雛子方が武家好みの能楽の五人雛子、天皇がつけるはずのない太刀を男雛に佩せ、女雛の頭に天冠をのせ、有職に反する二重眉であるのは古今雛が江戸からの空想・想像の所産であった証拠です。江戸の雑俳「桃の花のさかりなりけり内裏雛」とは江戸での時空を越えた想像の平安（古今）時代へのあこがれの事情を端的に伝えます。

青梅の文人、大奥出入りの古道具商山田屋黒田庄左衛門徳雅の「永久田家務本伝」に「古今雛」の流行の頃、一七七〇年代の追憶として「内裏雛には母と姉の在り候頃は、江戸へぬり直しに遣わし、ぬりかへ候で、衣裳は母の□□錦をとり候て仕立られ候よし。昔形ながらよき雛と存じ候」と述べています。修理にあたいする雛が青梅の町屋に伝えられ、錦の衣裳着の雛が愛玩されています。王朝を偲ぶに足る三十六人の平安時代を偲ぶすがの、古今和歌集のころの貴族達の絵姿が、青梅の町に近き武蔵御嶽神社拝殿に掛けられていました。江戸人の文化の状況を、ゆかしく思います。

また、青梅住吉祭礼五月二・三日に、青梅本町の会所に飾られる神功皇后と武内人形は、江戸末期の円熟した三代古今齋原舟月の名作で、胡粉仕上げの肌理も見事な貴婦人と老臣の容貌に、すぐれた「古今雛」の制作者の手際を鑑賞することもできるのです。

みたけの 重忠くん

作 たいやきジロー



ムサくんだより

御岳ビジターセンター

「森のパレット」

里より少し遅れて、御岳山に春が訪れます。

花が咲き始め、木々が芽吹き、虫や鳥が活発に活動を始める…。そんな春の御岳山で、森の「色」に注目してみてください。そこにはたくさんの「色」が溢れていて、森の個性を際立



「春の御岳山」
みどり色、淡いピンク色など、春は森の個性が感じられる季節です。

たせています。

たとえば、「みどり色」。

皆さんは、日本語で「みどり色」を表す言葉がどのくらいあると思いますか？私が確認したものだけでも、なんと三十七種類もありました。たしかに森の中の「みどり色」は、濃いみどり、やわらかいみどり、黄色がかったみどり、など多様です。

春の森では、他にもさまざまな「色」を見つけることができます。ビジターセンターから神社の森や日の出山方面を眺めると、まるで色とりどりの森のパレットが目の前に広がっているように感じます。

皆さんも、遠くから、近くから、ぜひ観察してみてください。



やわらかなみどり色の
カエデの葉

当社へお越しいただけない

崇敬者の方へ



本来は、神社にご参拝いただき、祈捧札・お守りを直接授与させていただくところですが、当社の標高は約1000mの山頂に鎮座しているため、諸事情によりどうしても参拝の叶わない方がいらっしゃいます。

また、近年は新型コロナウイルス感染症対策等の影響により、外出が制限され一層参拝が厳しい社会情勢となっております。

諸般の事情で、どうしてもご来社が叶わない崇敬者の方の為に、郵送等（国内のみ）による発送も承っております。

発送をご希望の方は、

「住所・氏名・電話番号」

に下記を添えて、お電話またはFAX、封書でお申込みください。

お申込みいただいた願い事とお名前を神前にてご祈捧した後、発送させていただきます。

☆祈捧札の申込み☆

○願意（願い事は二つまで）

○玉串料 三千元・五千元・一万円

一万元以上

（神棚の高さに制限のある方はご相談下さい）

○人生儀礼 祈捧の場合

厄除け・初宮等の方は生年月日を必ずご記入下さい

☆お守り☆ お守りの種類と個数

☆門札☆

大口真神札・火難除け・疫病封じ等
門札の種類と枚数

☆愛犬祈願☆ 愛犬の名前と願意

（願い事は二つまで）

☆犬形代☆ 枚数

※送料を申し受けます（宅急便は着払い）

※山頂の為、お手元へ到着まで、数日かかります。お急ぎの方は余裕をもってお申し込みください。

※祈捧の願意・お守りの種類等ご不明点がある場合、お電話にてご案内させていただきます。

○電話受付時間：9時～16時

○電話のかけ間違えにご注意ください

電話：〇四二八・七八・八五〇〇

社殿修理報告

旧本殿『常磐堅磐社』

昨年六月より行つて参りました旧本殿「常磐堅磐社」の漆塗り替え工事が、東京都と青梅市からの補助と崇敬者様のご奉賛等により、日光市の(株)鈴木美術漆工芸の匠技にて、この三月お陰様で無事完了致しました。約十ヶ月を要し丁寧に塗り替えられ、公儀普請を反映した美しく壮麗な社殿が往事の姿でよみがえりました。

この旧本殿は昭和二十三年、国の重要美術品に指定、昭和二十七年には東京都有形文化財に指定されました。一間社流造、檜皮葺型銅板葺で間口2.5m、奥行24m、基壇は壇上積、屋根には鬼板付箱棟に千木と堅魚木を配し、彩色は黒漆塗を基調として弁柄漆塗と金箔を用い、飾り金物を多用した華麗な建造物で、都内では数少ない桃山様式を留める本殿建築の一つです。現在の本殿(神明造)を明治十年に造替したために、常磐堅磐社として現在の場合へ移築されました。旧本殿には、永正八年(一五二一年)に三田弾正忠氏宗・政定が修復した棟札が残り、慶長十一年(一六〇六)に徳川家康により再建した事を記す鏡台の墨書銘、元禄十三年(一七〇〇)五代將軍綱吉による改修の棟札が残されています。昭和五十四年の三月の大風で西側の大杉が倒れ破損したため、昭和五十八年東京都により修理工事が行われております。

公儀普請の優れた本殿建築「旧本殿」は境内玉垣内にございます。全国一の宮の神様をお祀りしておりますので、是非ご参拝下さい。



旧東照社『皇御孫命社』・『東照社』

令和元年十一月より、皇御孫命社および東照社の腐朽修理工事を青梅市の補助を受け行いました。木工事部分には漆も施し一新致しました。



東照社 土台部分腐朽修理工事

屋根部分を半解体して工事を進める事となりました。

この社はずかつて東照社として元禄十三年に造営した記録が棟札に残ります。「新編武蔵風土記稿」には「檜皮葺高欄造」で「御紋散して廻り三間四方の朱塗りの瑞籬を構へり」とあります。工事前は瓦棒銅板葺で複雑な屋根の軒先に三葉葵の紋が配されていました。江戸末期に瓦棒葺きに変えたものと思われまふ。今回の修理では、雨漏りの原因となった瓦棒葺きを応急処置的に平葺きに変更しましたが、建設当初の面影をうつす形となり、重厚な趣のある皇御孫命社(東照社)となりました。常磐堅磐社の右前に鎮座し、現在は天瓊々杵命をお祀りしています。門の前には珍しい狛猪が置かれています。



皇御孫命社

灯籠奉納

多くの方にご奉納いただき、
参道銅鳥居に八基建立させて
いただきました。

厚く御礼申し上げます。

〔二基 奉納者（順不同・敬称略）〕

野島重好

関内馬車道デタルオフィス

河合毅師

川崎市多摩区長沢講

講元・世話人の皆様

町田・多摩・小野路講の皆様

㈱多摩ニュータウンサービス

横浜茅ヶ崎御嶽講

岸 純一・敏子

有限会社金咲通産

代表取締役 金崎 強



令和二年二月一日、

令和三年一月三十一日

（一万円以上順不同・敬称略）

有限会社アクア・サポート・スタッフ

今村 穰

元山剛史

安藤 敏

安藤利枝

坂本宗司

田中大介

フオーク居酒屋 華當

奉納

令和二年二月一日、

令和三年一月三十一日

（一万円以上順不同・敬称略）

倉重美喜

村野英夫

神山友和

S H I デンタルクリニック

有限会社 サンベアー

進藤喜一

清水正晴

野嶋和之

白井 旭

株式会社 野島商事

野島光伸

濱中満江

小野源一

林 正記

寛麗会

宇田川洋子

大口 眞

井口三月

天野光紘

中島昇一

十条御嶽講

深井 明

有限会社 スペースシップ

梅原英明

成田八重子

有限会社 小町建築設計事務所

小町幸生

相山美雄

大敷龍二郎

元山剛史

金井益雄

齋藤

張 勇

三箇龍仁

銀座タックスダックス

巳作和恵

三箇愛沙

喜田 豊

渡邊真理

樋口タマ

松本和治

矢嶋 進

野澤秀夫

川西ゆかり

嶋田亜矢子

宮井利香子

宮井英美子

嶋田浩典

梶山三郎

峯岸 忠

敬神奉賛員大祭のお知らせ

昨年予定しておりました、「敬神奉賛会設立奉告祭」ですが、社会情勢が落ち着く状況となりましたら、今年十月に会員の皆様にご参集頂き、祭典を執行後、会食にて親睦を深める会を催すべく計画をしております。八月頃にはご案内をお送りする予定です。

また、年会費のお支払いがお済みでない方は、お納め頂きましたら幸いです。

日時・令和三年十月三日

敬神奉賛員募集のご案内

当社では、敬神奉賛員を募集しております。敬神奉賛員とは、御嶽大神の御神徳を敬い、皆様の心の拠りどころとして、また武蔵御嶽神社の更なる護持発展を目的に創設いたしました。

奉賛員には例祭、祭典・行事のご案内のほか、新年に向けての御神札など各種の特典が受けられます。趣旨にご賛同いただき、ご入会下さいませようご案内申し上げます。

賛助費 五〇〇〇円

※詳しくは、社務所までご連絡下さい。

太々神楽奏上

昨年は残念ながらコロナ禍において太々神楽を奏上することが出来ませんでした。一日も早く事態が収束し、太々神楽の笛や太鼓の賑やかな音が境内に響く日が待たれます。

神楽と雅楽の一般公開（神楽殿・十二時開演）

六月・十月 第三日曜日

夜神楽（神楽殿・夜八時開演）

六月・十一月 第四日曜日

※コロナウイルス感染拡大の状況によつては、中止する場合があります。事前にHP等でお知らせ致しますが、来場される前にご確認下さい。

注連縄奉納

昨年暮れに、拜殿正面を飾る大注連縄等を、「御々講 麻間屋 麻光」様よりご奉納いただきました。誠に有難うございました。



拜殿前

桜苗木奉納

本年も「多摩の桜をつなぐ会」様による、「山桜」の植樹が行われました。大きく育ち満開の桜が見られるようになるのが楽しみです。毎年ご奉納いただき誠に有難うございました。

